

一人一台タブレット端末の普段使いに向けて ～ 豊中市版 SAMR モデル ～

SAMR モデル (Puentedura 2010) とは、ICTを活用することが授業にどのような影響を与えるのかを示す尺度で、“S・A・M・R”の4つの段階には、いくつかの解釈があります。豊中市では各段階を以下のように整理しました。

令和5年度(2023年度)においては、各学校でA段階の活用を当たり前にし、M段階の実践を増やすことをめざし、引き続き、学びの「マストアイテム」としての一人一台タブレット端末を、児童生徒が能動的かつ自然に活用できるような取り組みをすすめてください。

教師

主導の授業

主体的・対話的で深い学びの実現へ

子ども

主体の学び

STEP 1

STEP 2

STEP 3

S 代替

Substitution

従来のツールの代替
紙でもできることを
デジタル化

例 教師が…

- 大型モニタに提示する
- 教材動画を見せる
- 作文をドキュメントに書かせる
- デジタルドリルの活用
- 課題の配布、回収
- タブレットの活用を指示

子どもは…

- 教師の指示で、一斉にタブレットを使う

A 増大

Augmentation

デジタルの強みを生かして、
学習効果を増大

例 教師が…

- 考えを共有して思考を促す
- ファイルの共同編集をさせる
- データの集計、可視化
- 同時双方向授業(家庭⇄学校)
- 推敲などの試行錯誤的活動
- 子どもと活用場面を決める

子どもは…

- タブレットの活用頻度増加
- 活用スキルの習熟

M 変容

Modification

授業デザインの変容、
個別最適な学び、
協働的な学びの実践

例 子どもが…

- 調べる際に使用するメディアや発表に用いるアプリを自己決定する
- 相互評価し、フィードバックする
- 学習ログを積み重ね、振り返る
- 既習スキルを組み合わせて活用する
- 子どもが活用場面を決める

教師は…

- 子どもと一緒に課題を設定

R 再定義

Redefinition

子ども中心の学び、
実社会へつながる学びへ

例 子どもが…

- 興味関心に基づいた課題を設定し課題解決学習(PBL)に取り組む
- ICTによるタスク管理、進捗状況の共有、相互コメント、資料作りなどを行う
- 学習成果を実社会へ伝える

教師は…

- 教えるではなく、伴走、サポート

STEP 1 アナログでもできることの置き換えである S(代替) 段階から、 デジタルの強みを生かした A(増大) 段階の活用への移行 目安：小学校低学年～

視点 学びの質の向上につながるICT活用ができているか

- ワークシートをデジタル化した場合、図形などの操作、テキストの修正、クラスメイトの考えを共有することなどがしやすくなります。
- デジタルの強みを効果的に発揮するためには、タイピングやフォルダ操作などの基礎的なICTスキルの習熟が必須です。小学校低学年から学校全体での活用を進めましょう。

STEP 2 A(増大) 段階の活用を日常的に行うことで、 児童生徒のICT活用の引き出しを増やす 目安：小学校中学年～

視点 特にアウトプットの場面において、ICTを活用した多様な表現に挑戦しているか

- 子どもが自分自身の考えや学びをアウトプットする学習を進め、その中で様々なアプリに慣れ親しませましょう。その際、各ツールの特徴を理解させ、M(変容)段階での自立的な活用につなげましょう。
- 基礎的なICTスキルの他、Webでの情報の集め方、思考ツールによる整理・分析の仕方など、「探求の方法」をタブレット端末を活用しながら身に付けることができるようにしましょう。

STEP 3 子ども主体の学び【M(変容) 段階】へ 目安：小学校高学年～

視点 課題解決的な学びの中で、子ども自身がICTの活用場面や各ツールを選択しているか

- 子どもが発表ツールを自ら選択したり、共同編集やリンクの共有、チャットなどのコミュニケーションツールを活用したりするなど、子どもがタブレット端末の活用場面を決められるようにしましょう。
- 各教科において子どもが課題を立て、解決する授業づくりを意図的に位置づけましょう。タブレット端末をどのように使うかを子どもに考えさせ、教師はサポート中心に子どもの学びを深めましょう。係活動や委員会活動などの子ども主体の活動からスタートさせ、学んだことを地域などの学校外、実社会へ発信することへの興味関心をもたせましょう。

ICTの特性を生かした授業づくりを

ICTには、以下の例のように、紙等のアナログとは異なる特性があります。その特性を生かすことで学びの質を高め、個別最適な学びと協働的な学びの実現をめざしましょう。

視覚化

個人の思考や様々な意見、学習経過による変化等を、簡単に表やグラフに整理できる。視覚や聴覚に訴えるコンテンツが豊富にあり、理解をより深めやすい。



撮影・記録

写真や動画、音声入力等を使うことで簡単に、繰り返し記録できる。自身の音読やスピーキング、歌唱、運動等の確認にも活用できる。やり方の説明を動画で配信することで、それぞれのペースで繰り返し何度でも見られるようになる。

共有

調べたり集めたりした資料、写真、それぞれの考えを共有し、比較したり相互評価することを通して深い学びにつなげられる。

共同編集

資料を共同で作成したり、操作をしながら分析したりするなど、協働的な学びに取り組みやすい。

修正

修正や複数のパターンを作成するのも容易なので、文章を推敲したり、考えを整理・分析したりできる。

個に応じた学習

デジタルドリルや動画資料等を活用することで自分に適したペースで学んだり、それぞれの理解状況や、興味関心に応じた学習を進めたり、振り返ったりできる。

多様な表現

プレゼンテーションの作成や、動画、音楽、プログラミング等、子どもたちがそれぞれの学びを、様々な方法で表現できる。

実践的な情報モラル(デジタルシティズンシップ)教育を

ICT活用においては、教師の活用スキルを上回る児童生徒がいたり、端末やソフトが定期的にアップデートされたりするため、全ての不適切な利用や機能を網羅的に把握し、先回りしたルール作りを行うことは困難です。ICTを日常的に活用する中で、児童生徒がデジタル社会をよりよく生きるために必要な、資質・能力を実践的に育成することが必要です。



他律的・限定

何を

- ICTの活用は限られた場面であるという前提
- ICTを利用することで発生する可能性があるリスクやトラブルについての学習が中心
- 教師主導のルール作りや行動規範の徹底



自律的・活用

何を

- ICTを日常的に利用することが前提
- ICT使用のメリットを踏まえて、情報社会の一員としての責任ある利用について考えることを通して、どう行動・選択するかを自分で判断する力を身に付ける

※**デジタルシティズンシップ教育**とは… デジタル技術を用いて積極的に社会に参加し、健全で責任ある市民となるためのスキルやマインドセットを身に付けるための教育

豊中市教職員専用情報通信技術支援サイト



主なリンク

- [StuDX STYLE](#) (文部科学省)
- [各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画](#) (文部科学省)
- [大阪の児童生徒が1人1台端末を活用した実践事例紹介Webサイト](#) (大阪府)
- [ネット社会の歩き方](#) (JAPET)
- [STEAMライブラリー](#) (経済産業省)

…ほか